

難民支援 NGO “Dream for Children” 2014 年度活動報告書



目次

ご挨拶	2
追悼ケーラ・ミュラー	3
現在のチベットの状況	5
現在のビルマの状況	7
2014年度の活動	8
2014年度会計	13
付録：チベット難民の生徒たちの好きな場所	14

ご挨拶

平素より、難民支援 NGO “Dream for Children” の活動にご理解・ご協力を下さりましてありがとうございます。

2015 年 2 月、過激派組織イスラム国の人質となっていたアメリカの人道活動家ケーラ・ミュラーが殺害されました。彼女は、インドのチベット難民街でともに難民支援活動を行った盟友です。

ケーラがイスラム国の人質となっている間、ケーラ、そして、我々が釈放を訴え続けてきたチベット人映画監督ドンドゥプ・ワンチェンが釈放されました。また、ドンドゥプ・ワンチェンの助手ゴロク・ジグメ・ギャツォも亡命に成功しました。

映画を製作しただけで投獄されたドンドゥプ・ワンチェンとゴロク・ジグメ・ギャツォはチベット弾圧の悲劇の象徴的な存在でした。この 2 人の釈放を求めて、ケーラはもちろんのこと世界中の多くの方々が生声をあげてくれました。多くの方が協力して声をあげれば世界を変えることができるということが示されたと思います。

ケーラ、そして、多くの方々が生望んでいるであろう人権が保障されている自由な世界を実現させるべく、今後ともご支援いただけますと幸いです。

代表 亀田浩史

[表紙写真は、2014 年にインドへの亡命に成功したチベット僧ゴロク・ジグメ・ギャツォと代表亀田浩史]

追悼 ケーラ・ミュラー

インドのダラムサラでともにチベット難民の支援活動に従事したアメリカ人
人道活動家ケーラ・ミュラーが2015年2月殺害されました。26歳の若さでした。
ケーラはシリア難民支援活動中に過激派組織イスラム国に拘束され、人質にな
っていました。拘束中、ケーラはイスラム国の兵士と強制結婚させられていた
ようです。イスラム国によると、ケーラの死亡理由は、ヨルダン軍の空爆との
ことですが、真相は不明です。

ケーラとは、チベット難民の学校 Learning and ideas for Tibet でともに
チベット難民に英語を教えました。



ケーラのご冥福をお祈りするとともに、ケーラの遺志を受け継いでいきたい
と思います。



現在のチベットの状況

チベット本土は、依然として、中国政府によるチベット人のへの激しい弾圧が続いています。

【続く焼身自殺】

2011年から急増している焼身自殺が2014年度も続きました。2014年度は、チベット本土で、7人もの人の体が炎に包まれました。2014年度末でのチベット本土の累計の焼身自殺者は137人となりました。彼らは、チベットの自由とダライ・ラマ14世のチベットへの帰還を求めて、炎に包まれました。

【ドンドゥプ・ワンチェン釈放、ゴロク・ジグメ亡命に成功】

難民支援NGO“Dream for Children”が釈放を訴えてきたチベット人映画監督ドンドゥプ・ワンチェンが2014年6月5日に釈放されました。ドンドゥプ・ワンチェンはチベット本土で映画”Leaving Fear Behind”を製作したことにより、6年間投獄されていました。

ドンドゥプ・ワンチェンの妻であり代表亀田浩史の教え子でもあるラモ・ツォは、次のようなコメントを出しました。

「6年間の不正義と苦痛の日々が今日終わりました。ダラムサラにいる彼の両親、子供、私にとって、この上ない喜びの日です。家族の再会を楽しみにしています。」

しかし、ドンドゥプ・ワンチェンは釈放後も海外へ渡ることは中国政府から禁じられており、家族の再会はまだ果たされていません。

2014年10月、ドンドゥプ・ワンチェンは、ヴァーツラフ・ハヴェル賞を受賞しましたが、出国ができなかったため、授賞式には妻ラモ・ツォが参加しました。

また、ドンドゥプ・ワンチェンの映画製作を手伝ったとして投獄されていたチベット僧ゴロク・ジグメ・ギャツォが、2014年5月、刑務所から抜け出し、インドへの亡命に成功しました。投獄中は天井から吊るされ殴られるなどの拷問を受け、ろっ骨を骨折したり、内臓を患ったりしたとのことでした。

ゴロク・ジグメ・ギャツォは、2014年5月に国境なき記者団から、「世界の情報のヒーロー100人」に選ばれました。

【チベット人作家オーセルとアメリカ大使の面会を中国政府が妨害】

7月、チベット人女性作家ツェリン・オーセルがアメリカ大使館からの招待を受けました。この直後、中国当局はオーセルを自宅軟禁下に置き、オーセルとアメリカ大使の面会は実現しませんでした。

【ますます中国寄りになるネパール】

チベット人がインドへ亡命する際、経由する国がネパールです。そのネパールが最近、中国寄りの姿勢を強めており、チベット人への取り締まりが強まっています。

2014年5月には、”Team Tibet”と書かれたジャケットを身に付けていたアメリカ人とカナダ人がネパール警察に逮捕されました。

2015年3月、中国政府は、ネパール政府がチベット人を適切に取り締まっているとして、145億ルピーの支援を発表しました。



2014年にインドのダラムサラに建てられた焼身自殺者に祈りを捧げる像

現在のビルマの状況

我々の直接の支援先であるビルマ東部では大きな事件はなく小康状態ですが、ビルマ北部・西部を中心に情勢は不安定です。そのため、難民の人たちが今すぐ安全に帰国できるとは言えない状況です。

【仏教徒とイスラム教徒の衝突】

2014 年度も仏教徒とイスラム教徒の衝突が頻発しました。

7月、マンダレーでは、過激派仏教僧ウィラツの Facebook 投稿が発端となり、仏教徒の暴徒がイスラム教徒を襲撃しました。この衝突で、マンダレーには戒厳令が敷かれました。

【憲法改正は？】

ビルマでは、2015 年に大統領選が控えています。しかし、当時の軍事政権が起草した現行憲法下では、外国籍の子供がいるアウンサンスーチーは大統領選には立候補できません。

憲法改正には議員の 4 分の 3 以上の賛成が必要ですが、議席のうち 4 分の 1 は選挙を経ずして軍人に与えられる枠となっており、憲法改正のハードルは高い状況です。



タイで暮らすビルマ難民。彼らがいつ安全に帰国できるかはわからない。

2014 年度の活動

	国内の活動	現地の活動
4月	国際人養成事業	
5月		
6月		
7月		インドのチベット難民街での支援活動 ・物資支援 ・英語教育 ・コンピュータ教育 ・その他就職対策教育 ・現地調査
8月		
9月		
10月	・ワールドコラボフェスタ出展（名古屋）	
11月	・チャリティ英語セミナー（名古屋） ・新刊「チベット人女性の悲劇～情報統制の下でひた隠された真実～」発売 ・国際協力セミナー「ヒマラヤを徒歩で越えて亡命したチベット難民が暮らす街を訪ねて」（名古屋）	
12月	国際人養成事業	
1月		
2月		
3月	・国際協力セミナー「現地で聞いた難民の声～今あなたに届けたいチベット難民からのメッセージ～」（名古屋） ・チャリティ英語セミナー（名古屋）	

国内の活動

国内では難民問題の啓発活動に重点を置いて活動を継続しています。

【出版】

主に 21 世紀に入ってから亡命した人々の声をまとめた書籍「チベット人女性の悲劇～情報統制の下でひた隠された真実～」(チベット女性協会)の日本語訳本を出版しました。中国政府の統制により、チベット本土に外国人ジャーナリストが立ち入れない状況が続く中、近年チベット本土でどのような弾圧が行われているのかを知るための貴重な書籍です。



【講演会、展示会】

2014 年度は 2 回のセミナーと、1 回の展示会への出展を行いました。セミナーでは、チベットの全般の情報に加え、ドンドゥプ・ワンチェン、ゴロク・ジグメ・ギャツォの話を取り上げました。2015 年 3 月のセミナーでは、ケーラ・ミューラーの話も取り上げました。これまで講演会参加者の 94 %の方に、「非常に満足」、「満足」とご回答いただいています。

また、展示会では、チベット・ビルマ関連の啓発活動に加え、チベット難民の生徒がつくった旗の展示を行いました。

【ブログでの啓発活動】

現地メディアのニュースのうち日本のメディアが取り上げない情報を中心に、ブログで情報拡散を続けています。ブログのアクセス数も 200 万を突破し、多くの方に見ていただけるようになってきました。

【国際人養成事業：名古屋英語特訓道場】

2014 年 4 月に名古屋英語特訓道場と改称し、学生、社会人向けに主に英語を通じて国際感覚が身に着くような指導を行っています。2014 年度はセミナーも 2 回行いました。

現地の活動

ビルマ東部と比較してチベット情勢が著しく悪いため、2014年度もインドのチベット難民街で集中的に活動を行いました。

【物資支援】

文具、衣類、英語に翻訳した日本語の絵本を、チベット難民の子供たちが暮らすチベット子供村へお届けしました。チベット子供村の複数の校舎の中でも状況が悪い、標高4,000メートルの高地にあるスムドに優先的に物資を届けました。一番大きいチベット難民街ダラムサラは物が足りない状況は脱していますが、スムドなどでは子供たちが今なお栄養失調にあえいでいます。

【チベット難民の学校での英語・コンピュータ教育】

言葉の問題で就職が難しい大人のチベット難民への英語教育を継続しています。

また、放課後の空き教室を使って、過去に不当投獄・拷問を受けたチベット人の話を聞く場を設け、外国人向けに啓発活動を行っています。



チベット難民の学校の様子

[学校のトピック1：コンピュータールーム完成]

ある程度の台数のコンピュータが集まったため、受付部分にコンピュータールームをつくり、コンピュータ教育を開始しました。インドでの就職では、英語に加え、コンピュータ能力が問われることも増えています。



新たに完成したコンピュータールーム

[学校のトピック2：好きな場所の旗づくり]

チベットで伝統的に使われる5色の旗に、生徒たちが自分の好きな場所を描きました。旗の一部は、本報告書の付録に掲載しています。

【チベット難民女性の地位向上トレーニング】

難民支援 NGO “Dream for Children” 支援先チベット女性協会による「チベット難民女性の地位向上トレーニング」が初めてダラムサラで行われました。インドでの女性の地位向上に取り組むインド人女性活動家などをゲストに迎え、ワークショップを交えたトレーニングが行われました。



チベット難民女性の地位向上トレーニングの様子

【聞き取り調査】

難民の方への聞き取り調査を続けていますが、チベット・ネパール境の警備が厳しい状況が続いており、新たな難民の数が激減しています。年平均の亡命成功者は2008年以前の数十分の1程度になっており、最新のチベットの状況を新たな亡命者から聞くのが非常に難しくなっています。



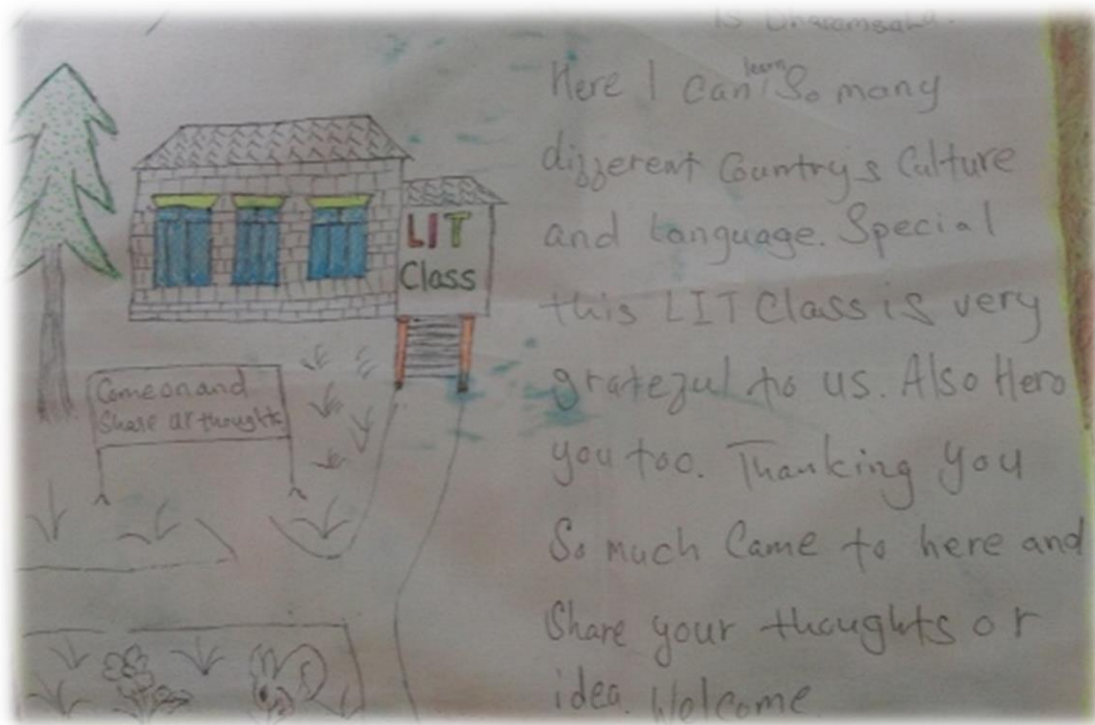
チベット亡命政権ペンパ・ツェリン報道官と代表亀田浩史。ペンパ・ツェリン報道官から私達の活動に対して感謝の言葉をいただきました。

2014 年度会計

単位 [円]

前年度繰越	▲ 549, 178
収入	
事業収入	1, 684, 056
会費収入	85, 000
助成金	0
寄付（一般寄付）	4, 000
寄付（現地支援寄付）	42, 000
計	1, 815, 056
支出	
啓発事業費	240, 838
海外事業費	113, 263
国際人養成事業費	122, 027
現地への寄付	254, 656
旅費・交通費	160, 567
管理費	665, 245
広告費	12, 178
印刷費	69, 692
送料	37, 841
計	1, 676, 306
今年度収支	138, 750
次年度繰越	▲ 410, 428

【付録：チベット難民の生徒たちの好きな場所】



チベット難民の学校の絵